外国人就労者レポート

ベトナム人の外国人技能実習生を受け入れて

福井 松原病院

近年，地方の単科の精神科病院においては，看護師，看護補助者などの人材が慢性的に不足し始め，将来的にはより深刻な人材不足の事態が予測されています。松原病院においてもその陰りが見え始めたこともあり，このたび「外国人技能実習制度」に手を挙げました。平成29年より日本精神科病院協会のもとで外国人技能実習生の受け入れ準備を進め，晴れて令和元年10月より２名のベトナム人実習生を受け入れることとなりました。実習生は現在，認知症疾患治療病棟の看護補助者として介護業務に従事しています。

今回，実習生の受け入れ開始から半年経過したことを受け，１人のベトナム人実習生本人と配属先の指導担当者の病棟看護師長から，外国人技能実習に係る聞き取り調査を行いました。今後のさらなる外国人技能実習生受け入れ拡大の一助となることを願い，以下に報告します。

実習生の聞き取り調査まとめ

自己PR（実習生紹介）

〈名前〉ダン・テイ・アイン・チャン（女性　24歳　独身）
〈出身〉ベトナム　ナムディン出身（首都ハノイの南東地域）
〈家族構成〉両親，兄２人，姉，本人（６人家族）
〈家業〉両親ともに農業従事者
〈趣味〉風景写真撮影
〈業務〉認知症治療病棟において看護補助業務に従事

来日時期と実習期間

〈来日時期〉2019年８月23日
〈就業開始〉2019年10月
〈実習期間〉３年間

来日前の状況や経歴

ベトナムでは，ナムディン看護大学において看護師を目指して学業に励みました。大学在学中から日本には興味があり，技能実習生に応募することを考えていました。2018年10月に大学卒業後，すぐに外国人技能実習制度に申請し，「ハイエンド日本式介護職育成センター（JVS-JCCD）」において約１年間研鑽し，2019年８月に念願が叶い来日しました。

日本での就労を希望した理由

現在，ベトナムは人口構造の黄金期にありますが，高齢化の過程で2040年頃には人口が急激に減少することが予測されており，近い将来に訪れる高齢化社会の時代に社会に貢献できるように，優れた技能を身に着けることを目的に技能実習生に応募しました。

日本を選んだ理由は，日本は経済面・技術面・科学面に優れており，治安も大変行き届いた国として興味があったこと，また，ベトナムは同じアジア圏にあり文化的にも類似点があることから，日本での生活が馴染みやすいと考えたからです。さらには，家族の家計を援助するために収入面でも適切であると考えて，日本の就労を希望しました。

日本語の習得方法について

来日前の約１年間，ベトナムにある「ハイエンド日本式介護職育成センター（JVS-JCCD）」において，日本語の読解と聴解，文法など，日本語習得に必要な語学を学び，日本語能力試験N4程度を身につけました。来日後は，愛知県一宮市の研修施設「アバンセライフサポート」で約１カ月間入国後講習を受講し，総合日本語，聴解，読解，文字，発音，会話，作文，介護に係る言葉等，さらに日本語の学習に努めました。また，現在就業先の松原病院においても，週１回のペースで日本語勉強会が開かれ，より臨床的な語学も含めた日本語の習得を目指すとともに，業務上で接する病院職員との日常会話を通して教えてもらうことも多く，これらも日本語の上達につながっていると考えます。

日本のイメージについて

来日前に抱いていた日本の印象は，富士山や春の桜，秋の紅葉など，自然の景色がとても美しく綺麗なところで，経済が発展しており，治安がとてもよいということです。また，日本人は何ごとにもとてもまじめで探求心がとても強いという印象がありました。

実際に来日して７カ月が経過した今，実感するのは，町中にゴミが少なく，空気も澄んでいることで，とても綺麗な環境にいつも感動します。また，実際に接する周囲の人たちは皆やさしく，安心して楽しい生活を過ごすことができています。

文化・習慣の違いで戸惑ったこと，困ったこと

来日してからというもの，文化や習慣の違い，言葉の違いには戸惑うことばかりです。まだ来日して７カ月という短期間であり，日本文化や習慣を理解することは容易ではありません。とくにいつも戸惑い困っているのは，日本語の方言（福井弁）です。ベトナムで１年間も一生懸命に日本の標準語を勉強してきましたがまったく違うことがあり，コミュニケーションがうまくできず，習慣もわからないことから，周りの人に誤解を招いたり迷惑をかけてしまうことがあります。今後はもっと日本の生活を身につけていくため，もし文化や習慣の違いを周りの人が感じたなら，ぜひ教えてほしいと思っています。

向かって左から，指導担当者，ベトナム人実習生リンさん，チャンさん，配属病棟看護師長

担当業務内容について

現在，認知症疾患治療病棟で，療養上の看護補助業務に従事しています。入院患者さんは皆認知症の方で，認知症の病状に応じてチームに分かれ，主に介護業務，環境調整業務，その他チームとしての受け持ち業務などを行っています。

介護業務については，看護師の指導の下で，食事介助，入浴介助，排泄介助，移乗・体位交換，ベッドメーキング，病室移動，入退院・転入出の病室準備の他，患者さんとの個別的関わりや，集団活動（リハビリ）の協力などを行っています。環境調整業務については，環境整備チェック表に沿って，病室，トイレ，廊下など，汚染箇所はとくに注意して清掃，整理整頓など病棟内の環境を清潔で安全に保つための業務を行っています。チームの受け持ち業務としては，入浴準備，ロッカーの整理，必要物品の補充などを行っています。

うれしかったこと

毎日の仕事のなかで，同僚の皆さんは皆家族のようにやさしく，いつも平等に関わってくれます。どんなに忙しくても，仕事上のさまざまなことを教えてくれたり手伝ってくれたりします。時には一緒に勉強をすることもあり，毎日楽しく仕事をすることができており，大変感謝しています。

またプライベートでは，現在，福井県に多くのベトナム人が住んでおり，ベトナム人の友人も増え，皆といろいろ助け合いながら生活しています。ただし，ベトナムの友人と話していると故郷を思い出し，家族に会いたくなるなど少し寂しくなることもあります。

不安に思っていること，困っていること

今，最も難しく不安に思うことは言葉の問題です。言葉を理解しないので，仕事の流れをつかむことができず，多くの問題が発生します。また，自分の言いたいことも伝えることができず，困ることがあります。仕事上だけではなく，日常生活においても言葉の壁によって大変に感じることがたびたびあります。しかし，自分の努力と周りの助けがあれば，この問題は克服できると思っています。

必要な支援について

仕事や生活のうえで最も困るのは，やはり言葉の問題です。現在，毎週の日本語勉強会や，パソコンの日本語学習ソフトなどで学習していますが，もし，間違った言葉やおかしな日本語を話した場合には，すぐに注意して直してくれるなど，もっとコミュニケーション能力が上達できるような支援を望んでいます。

今の生活や仕事の満足度について

今住んでいるアパートは病院から徒歩３分くらいの場所に用意していただき，生活に必要な家具や電気製品，自転車までも準備していただきました。また，買い物の仕方や町内会のこと，ゴミの分別のことなど，生活習慣についてもていねいに教えてくださり，今の生活自体には十分に満足しています。仕事上でも，楽しい仕事，やさしい同僚がおり，日本での生活も仕事もとてもよい環境にあると思っています。いずれベトナムに戻り国に仕えるため，今ここで多くのことを学べることにとても満足しています。

１日の過ごし方

普段は，仕事が終了すると真直ぐアパートに帰り，すぐに入浴を済ませ，同じ実習生のリンさんと一緒にベトナム料理をつくり，夕食をとりながら，その日にあったことを話し合うようにしています。お互いに話すことで１日の疲れが取れ，リフレッシュするのに役立っています。また，休日には，リンさんと公園の散歩や，近くのスーパーへ買い物に出かけたりします。空いた時間には，１人で日本語の勉強をしたり，好きなことをしてゆっくり過ごすこともあります。

将来の夢について

将来的には，日本語能力試験の「N2」取得を目指し，日本で介護の資格（介護福祉士）を取得することを夢見ています。また，日本での就業においてできる限り貯蓄し，家族の家計を経済的に支援したいです。今は，将来の仕事につながるように経験をしっかり積んで，自分の夢のために精一杯努力したいと思っています。

実習指導担当者（病棟看護師長）の聞き取り調査まとめ

実習生の印象について

遠い国から日本に来て不安も多いかもしれませんが，実習生２人とも笑顔が印象的です。業務上で行う指導に，いつも元気な返事と，何ごとにも素直で前向きに取り組む姿勢や笑顔など，実習生の若いエネルギーは病棟全体に活気をもたらしています。

毎日手づくりで弁当を持参し，仕事の後も家事や勉強と頑張っている姿を見ると，かえって頑張りすぎて疲れてしまわないかが心配です。休日には，福井の素敵な場所や文化に多く触れて，ぜひリフレッシュできるようにしてほしいです。

受け入れ側の苦労

最も苦労するのは，やはり言葉の壁です。患者さんの安全と実習生の安全を守るためには，どうしても情報を共有する必要があり，正確に情報が伝わっているかどうかが不安になることがあります。また，実習生側にも仕事やプライベートのなかで不安に思ったり困っていることがあると考えられますが，こちらにうまく伝えられずに困惑しているのではないかと心配しています。現在も実習生はプライベートな時間を利用し，懸命に日本

語習得の努力をしていることから，受け入れ側も，なるべく方言などわかりにくい言葉を使用せずに聞き取りやすい標準的な日本語を話すように努め，双方共にコミュニケーション能力の向上を図っていく必要があると日々感じています。

職員の反応・影響

実習生たちの前向きでエネルギッシュな姿勢は，周囲の職員にとてもよい影響を与えていると考えられます。職員が指導する側の目線になることで，適切な指導のために自身も基本に戻ったケアを心掛ける姿勢が見られるようになり，さらには実習生たちのていねいなケア業務や患者さんと関わる姿勢の影響を受けて，職員自身が心穏やかになることもあるようです。また，プライベートでも職員が関わることがあり，実習生の国(ベトナム)の文化に興味を持ったり，日本の文化を紹介する際に改めて日本や福井の文化に触れたりと，職員たちが刺激を受け改めて勉強するよい機会にもなっています。

患者さんの反応

実習生は現在，認知症疾患治療病棟に配属されて看護補助者としての業務に励んでいます。認知症の患者さんへのケアやリハビリテーションなどの場面で，いつも笑顔で寄り添いながら接する姿勢は，患者さんたちにも大きな安心を与えていると思われ，実習生が来てからというもの，患者さんの笑顔が増えたと感じています。

実習生への激励の言葉

今回，病院の新しい仲間として，リンさん，チャンさんの２人のベトナム人の外国人実習生を迎えたことが病棟にとってよい刺激となっており，病棟全体の雰囲気が大変明るくなっていることを改めて実感し，感謝しています。

ぜひ，日本での技能実習を通して，多くの技能・技術・知識の習得はもちろんのこと，日本文化や風土，地域の習慣など日本のよい点を多く学び，ベトナムへの帰国後も立派な看護師として医療の発展を担う立場になることを願っています。また，日本での経験が今後の外国人技能実習生の見本となって，ベトナムと日本の大きな架け橋になることを望んでいます。若くて努力家で前向きな２人の実習生は，とても探求心が強く吸収力も備えており，この機会を通して公私にわたりさまざまな多くのことを学び，次の夢に向かうことを心から祈念しています。

看護補助者としての業務に励む実習生

さいごに，今回当院として初めて医療業務（看護補助）のなかでベトナム人の外国人技能実習生を受け入れましたが，実習生本人と指導担当者に聞き取り調査を行ったことで，上記のごとくさまざまな課題が見えてきました。国の文化の違いによる生活習慣の違いはもちろんですが，なかでも最も大きな課題となるのはやはり「言葉の壁」の問題です。とくに医療介護業務には，適正なコミュニケーション能力が必須であり，実習生がどれほど勤勉で就業意欲が高くても，言葉の壁がクリアされない限り，実習生にも受け入れ施設にとっても，双方の利益にはつながっていきません。

とはいえ，今の日本の医療福祉業界にとって，認知症高齢者の増加，介護ニーズの高度化により必要な人材の不足は避けられず，外国人技能実習制度を利用しての実習生の受け入れは，今後も拡大させていく必要があることも明らかです。まだまだ外国人技能実習制度には紆余曲折があるかもしれませんが，当院としては今後も外国人実習生の受け入れを進めていきたいと思います。